

コラム

日本語入力と省エネルギーについて

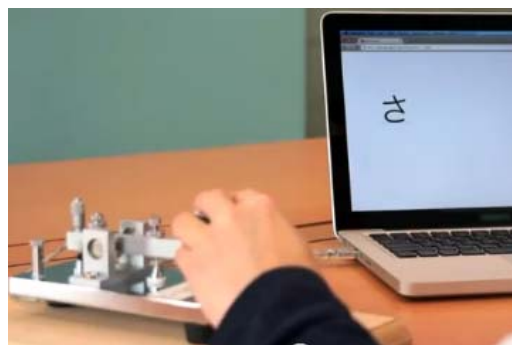
地球環境ユニット・省エネルギーグループ 研究主幹 沈 中元

どうやら日本語入力の煩わしさを感じているのが私だけではないようだ。

IT 業界のスーパー・ジャイアントのグーグル社が本気で革命的な入力方法の開発に乗り出している。その開発の成果の第一弾としては、2010 年に「Google 日本語入力キーボード・ドラムセットバージョン」¹を公表した。このバージョンでは、数字、英字、かな、漢字、符号、顔文字など、1,000 個以上の文字列をドラム状の円盤の上にずらりと並び、煩わしい変換を一切不要としたのである。自宅やオフィスなどで、スペースさえあれば好きな場所に自由に配置できる特徴もあり、当初はかなり期待されていたようだ。しかし、このバージョンではあまりに多くのキーとそれらの位置をすべて正確に覚える必要があるため、利用者数が思うように増えなかった。



1) ドラムセットバージョン



2) モールスバージョン



3) パタパタバージョン



4) メガネ式パタパタバージョン

写真ソース：グーグル社の HP より（一部加工）

¹ ドラムセットバージョン： www.google.co.jp/intl/ja/landing/drumsetkeyboard/index.html

さすが IT 業界の王者で、2 年後の 2012 年にグーグル社は入力キーの数を極端までに減らす方法を開発できた。それがモールス符号のアルゴリズムを採用した「モールスバージョン」²であった。このバージョンでは、必要な入力キーの数が 1 つだけで、当然キーの配列を覚える必要もなく、入力の際には、スペースキーやマウスでツートン・ツートンするだけである。片手も足でも操作が可能のため、コーヒーを飲みながらメールを返事するなど、活用できるシーンを容易に多く想像できる。ところが、この方法ではモールス符号表を事前に覚える必要があり、それが障壁となったか、モールスバージョンの普及も結局見られなかった。

入力キーの数とキーの配列をどのようにバランスよく取り入れたらよいのか、グーグル社が考えた末、空港や駅などの時刻表からヒントを得て、2013 年に「パタパタバージョン」³を公表した。このバージョンでは、文字がパタパタとフリップしながら次の文字に自動的に変わっていく仕組みで、入力の際には、欲しい文字が現れたらストップ・ボタンを押すだけである。この入力方法の運命はまだわかっていないが、グーグル社がすでにこの方法の改善に着手し、「メガネ式パタパタバージョン」を開発し始めているようである。

日本語入力はその仕組が複雑で、漢字変換不要な英語入力と比べて面倒ではなく、同じ漢字変換が必要な中国語入力と較べてもかなり面倒だ。その結果、同じ時間で入力できる文字数が少なくなる。よく新聞やウェブサイトの記事を読むと、なぜ同記事なのに日本語の記事のボリュームがそんなに薄かったかと思わせられた場面がしばしばあったが、よく考えると、記者に情報があつたとしても入力時間がなかったのではないかと推測したい。

私がグーグル社の日本語入力開発事業に注目している理由は、いうまでもなく省エネルギーと関連しているからである。仮に日本語入力のスピードが倍になり、同じ量の仕事を同じ質で完成するには、半分の時間で済むから、単純計算で 50%の省エネルギーを実現できるのではないかと夢のように想像している。グーグル社の日本語入力の発表は年の 4 月 1 日となっているために、来年もこの時期をどきどきしながら期待したい。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

² モールスバージョン : www.google.co.jp/ime/-.html#intro

³ パタパタバージョン : www.google.co.jp/ime/patapata/